

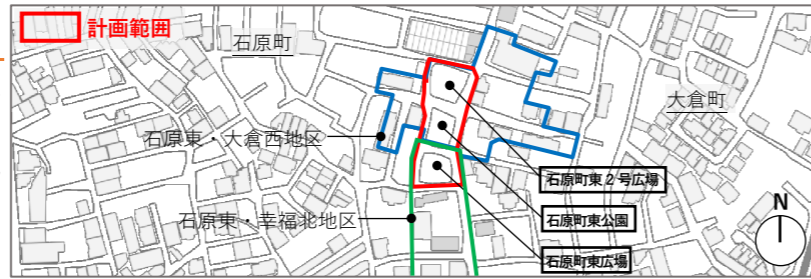
石原町東広場等リノベーションプロジェクト基本計画 ～概要版～

01 現況及び課題とポテンシャルの整理

計画地は、京阪古川橋駅北側の石原町と大倉町の境界部に位置し、土地区画整理事業等によって形成された2つの地区（石原東・幸福北地区および石原東・大倉西地区）に属する。また、各公園は異なる時期に整備された。

課題

- 異なる時期の整備により**素材や色調が不統一**で、近接しながらも**一体感を感じにくい**。
- 日除けできる場所が少なく**、夏場や日中の**滞留や活動がしづらい環境**である。
- 一部の植栽柵が大きく、公園内での**安全な歩行や活動、回遊のためのスペースを狭めている**。



石原町東2号広場 石原町東公園 石原町東広場

機会とポテンシャル

- 良質な景観**を意識した**舗装材や美観**を備えている。
- 車両交通量が少ない**ため、車道を介して**複数の広場を一体利用・回遊**しやすい。
- 高木のクスノキ**が緑陰を作り、**滞留する人同士の距離感や日差しを調整**している。
- 区画分けされた植栽柵**により、**多様な植物が育ちやすい空間骨格**が既に存在している。
- すべり台やジャングルジム、ブランコなどの**多様な遊具**があり、**同時に複数の子どもが遊びやすい**。

02 社会実験

石原町東2号広場、石原町東公園、石原町東広場のウォークラブルな環境づくりの検証を目的に実施した。



道路上へのベンチ付き自転車スタンドの設置 マルシェスタンド及び滞留テントの設置 子どもの遊び場(ボール遊び等)の設置

効果検証結果

- キッチンカー、カフェスタンドなどの商業機能を望む人が多く、これらの企画をしたという回答者がいた。
- 幼児、小学生の半数以上が遊具を使用していた。
- 休憩ができる場所を望む人の割合が多かった。

⇒多世代が居心地良く交流できる場を創出する

03 整備コンセプト

みんなの“PLAY”が集う公園

～わ（輪・話）が広がる みんなの庭～

畑や花だんづくりを通じてみどりへの関心と居心地を高め、共通の話題と共に、楽しみながら活動の輪がエリア全体に広がっていく。
商業機能も重ね合わせながら誰もが憩い、集いとなるPLAYFUL（遊び心のある）な庭のような居場所をみんなで育む。

04 整備方針と実現に向けた方策

- 整備方針1** 歩きたくなる・使いたくなる空間づくり
方策① 楽しい色使いなど、一体感を感じられる空間づくり
- 整備方針2** 多世代が過ごしやすい空間づくり
方策① 日除け環境の構築などによる滞在快適性の向上
- 整備方針3** 市民が関われる活動スペースづくり
方策① 市民農園や市民花だんスペースの導入
方策② キッチンカー等の商業スペースの導入
- 整備方針4** 活動を維持する体制づくり
方策① 都市再生推進法人等のまちづくり団体との連携



共通色でベンチを塗装した場合のイメージ ミスト機能を持つパーゴラとベンチ

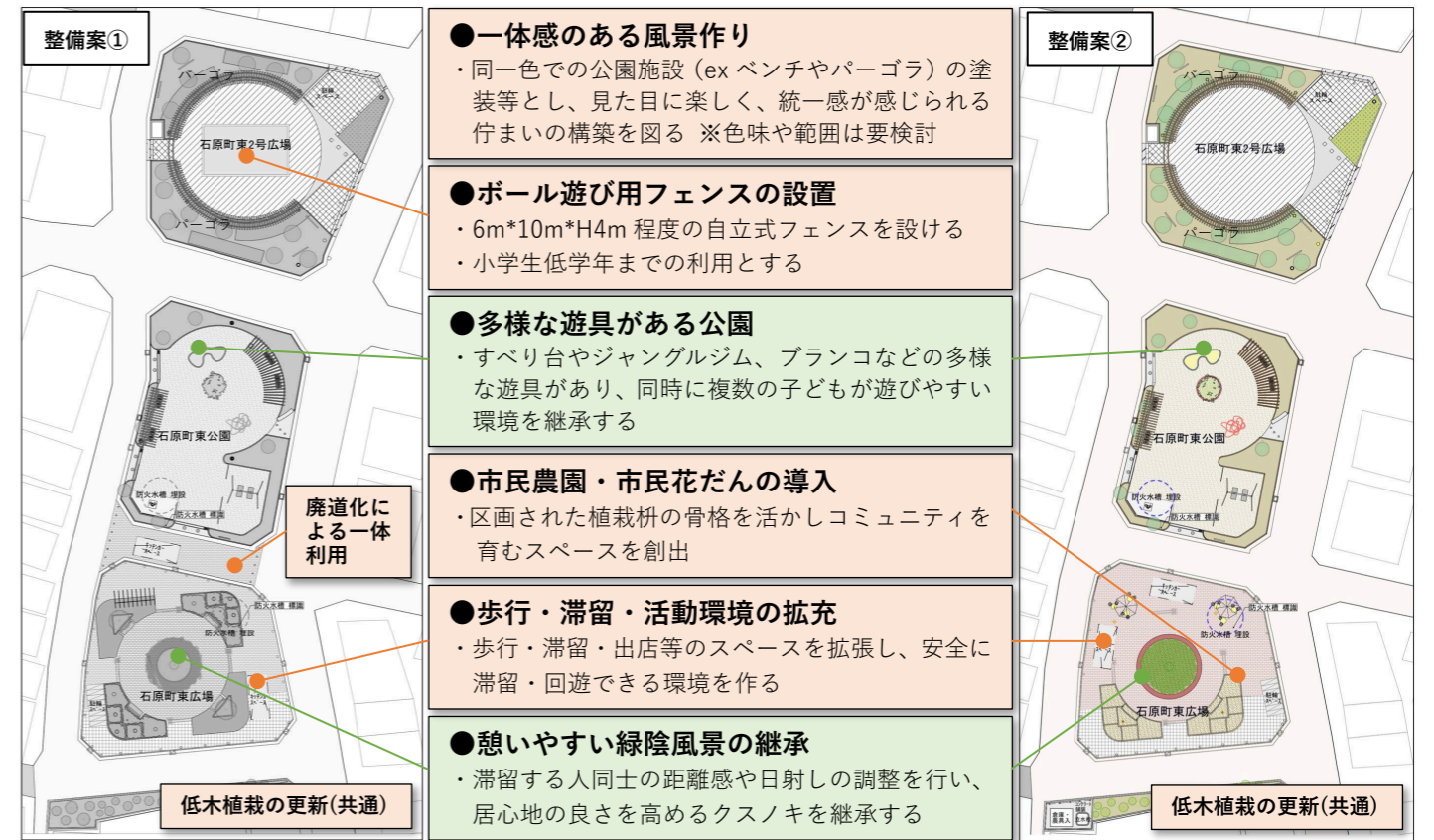


コミュニティファーム (埼玉県草加市) 店舗空間イメージ (羽衣駅前社会実験)

05 整備計画と活用イメージ

凡例：再活用・継承 更新 or 新設

※検討・協議の結果、同一校区内で整備予定の公園にてボール遊びの機能を担う方針が望ましいと判断した。また、公園の魅力向上を目的とする廃道は困難との判断から、案②を選定した。



06 整備スケジュール

令和5年5月に「古川橋駅周辺地区まちなかウォークラブル推進基本構想」を策定。同構想に基づき、11月に社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.1」を実施した。その結果を受け、本計画をとりまとめた。今後は、エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事を旨す。

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度以降
	「古川橋駅周辺地区まちなかウォークラブル推進基本構想」の策定	「石原町東広場等プロジェクト基本計画」の策定※		実施設計・工事 (予定)
	社会実験「PLAY FURUKAWABASHI Vol.1」の実施		エリアのステークホルダーとも連携し、地域ニーズ等を確認しながら、実施設計・工事を旨す	

※古川橋駅周辺地区まちなかウォークラブル推進基本構想に示された4つのプロジェクトと合わせて策定